

事務局 〒523-0857 近江八幡市八幡町170(旧八幡教育集会所内)
 電話 【携帯】 080-2525-7114(高坂)
 【メール】 Tko_koj1224@yahoo.co.jp

速いもので、2024年度も最終月3月となりました。この時期になると、人権ネットワークに集うメンバーの頭には不安がよぎります。それは、現在私たちが事務局・研修及び活動の場所として利用している『旧八幡教育集会所』の存続問題です。老朽化しているとはいえ、この重要な施設「次の年もその次の年も使い続けるには」と頭を悩ませます。

1982年に完成した本施設、地域住民の期待が大きかっただけでなく、その後の利用状況及び延べ利用者の数は大げさではなく膨大になります。ところが、同和对策事業終結を受けて、行政側は施設存続の意見と廃止する意見とのほざまで揺れ動いているようです。

もちろん私たちは存続を強く希望しますが、会員のみなさん・読者のみなさんにも力を貸していただきたいと思えます。よろしく願います。ということで、記念文集からの第6弾です。ここまで、登場していただいたのは当時の①友岡昭紀さん/教育集会所長②犬井久夫さん/八幡中学校長③河井弘さん/同和地区指導員④小野田幸太郎さん/元地域総合センター役員⑤片岡祥吾さん/元教育集会所長でした。そして、先行して登場願った同和地区指導員の河井ひさ子さんです。今回は…

<ARCHIVE/アーカイブ>

八幡教育集会所十周年記念文集より ⑥

教育集会所建設の思い出

元地域総合センター役員 谷口勝己

八幡教育集会所十周年、おめでとうございます。

思い起こせば、本教育集会所は多くの人たちの努力と協力によって、難産の末に、1982(昭57)の7月にようやく老人憩いの家と併設して落成した。

八幡隣保館は1964(昭39)年に、つづいて八幡保育所は1967(昭42)年に建設されたが、それ以後、公共施設は長い間建設されなかった。

それが1969(昭44)年に同和对策事業特別措置法が施行され、八幡町の改良事業が始まると、次々と公共施設が建設された。

住宅建設を除いた公共施設を見てみると、1972(昭47)年の*第1公衆浴場から始まって、教育集会所(現別館)、第2公衆浴場、共同理容所、共同作業所、児童館、市井集会所、納骨堂に続き、本教育集会所・老人憩いの家が建設された。

本教育集会所は、現在の教育集会所別館の建設の時から、六百世帯・二千人を越える八幡町では小さいから、もっと大きな教育集会所を建設すべきだとの意見があったが、町内の古くて狭い会議所を撤去したところに教育集会所が建設されることになった。

その後、解放運動の高まりと環境改善事業の発展の中から、大規模教育集会所の建設が市において決定されたが、将来の管理・運営面から老人憩いの家と併設し、体育館も一緒に建設することになり、その場所をどこにするか二転三転した。地区内改良事業の真っ最中で、用地買収などからんで位置が決まらず、4~5年を経てようやく現在地に建設されることになった。

たまたま本教育集会所が落成したとき、私は八幡地域総合センター運営協議会の会長であったので、その当時の町民の苦労が、今でも昨日のここのように思い出せます。

ここに改めて、十周年を迎えたことを、心からお祝いいたします。

* ここで紹介された施設は、すでに取り壊されているものもあり、町を歩いても見られない・面影を感じられない場合もあります。しかし、町の人にとって思い出深く、大切な役割を果たしていたことも事実です。

右上のイラストですが、谷口勝己さんと言えば普段からこのスタイル=着流しの和服姿だったからです。勝己さんは、部落解放同盟近江八幡市協議会の委員長・長く在籍された八幡中学校の教員・同和教育の研究者・部落史や部落問題の執筆家・郷土史家など様々な顔を持っておられたユニークな方です。

本稿だけでなく執筆された文章などの紹介を、本紙を通じてできればと考えています。今回も、実物とは少し違うイメージのイラストではなく写真をと考えたのですが、見つけれませんでした。これも、探し出して本紙で紹介できればいいのですが。





サッカーをこよなく愛するドイツからやって来た映画『ぼくとパパ、週末の約束』を紹介します。

ミルコとファティメ夫妻は、生まれた息子のジェイソンが自閉症だと宣告されます。夫妻はショックを受けますが、「この子の幸せのため、できることは何でもしよう。」と決意します。

10年の月日が流れ、ジェイソンは地域の小学校に通っています。多くのこだわりやルーティーンを持つジェイソンは、学校生活になじめません。友だちとのトラブルや度重なる授業妨害に、校長先生から「障がい児学校に転校してほしい」と言われてしまいます。夫のミルコは仕事が忙しく、ジェイソンのことは妻のファティメに任せきりでした。ある日の夫婦喧嘩で、自分を責めるファティメに対してミルコは「そんなに言うなら役割を交代しよう。これからは俺がジェイソンの面倒を見るから、きみは稼いで来い！」と言ってしまいます

そんな時、ジェイソンが「推しのサッカーチームを作りたい」と言い出します。クラスの友だちは皆、推しのチームを持っていて、宇宙物理学は詳しくせにサッカーのことを何も知らないジェイソンは馬鹿にされていたからです。こだわりの強いジェイソンは「すべてのチームの試合をホームスタジアムで見ながら決める」と譲りません。ジェイソンの面倒を見ると豪語してしまったミルコは、翌週末からドイツ国内にある56のサッカーチームのホームスタジアムをジェイソンと共に回る羽目になります。ここからミルコとジェイソンの珍道中がスタートします。ミルコの悪戦苦闘ぶりに、館内は爆笑の連続です。ミルコは週末の体験を通して、妻が10年間どんなに大変だったかを知り、素直に謝罪するようになっていきます。

ところが、ある週末に事件が起きます。いつものトラブルで大事な仕事をすっぼかしてしまったミルコは、「お前に付き合うより、仕事していた方が楽だった」と言ってしまったのです。その日からジェイソンは口をきいてくれなくなり、ミルコは自分の失言を悔いても悔やみきれません。さあ、ミルコはこのあとどのように息子との関係を修復するのでしょうか。

ラストでこの映画が実話であると知らされビックリ。実在する父子は、今もドイツ中のスタジアムを巡り続けているそうです。

(見て書いた人…渡邊幸平)

スマホを棄てて、街へ出よう ～膳所「ときめき坂」を車イスで～

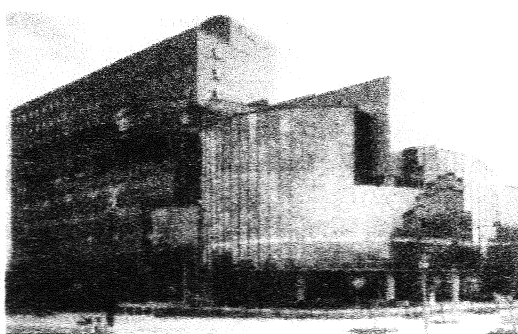
ようやく春らしくなってきた。ウグイスの鳴き声も近所から聞こえてくる今日此の頃。

先日、久々に「共生・共育の会」の江川さんのお手伝いで、大津打出浜のピアザ淡海まで、総会の会場予約に出かけることになった。

「ピアザ淡海」は、この3月で閉館されるらしい。我々がピアザに着いたのは昼頃であったが、1階のレストランには客の姿が見えず閉館としていた(やっぱりつぶれるか...)。高い使用料を施設に収めてから、近くの光荘に顔を出し、膳所駅へ向かい出したら、冷たい雨が降ってきた(クソ～冷たい)。

帰りの「ときめき坂」で車イスを押すのは、けっこう疲れる。何が「ときめき坂」やとブツブツ江川さんに文句を言いながら…。そういえば、『成瀬は信じた道を行く』(宮島未奈・作)が今年も本屋大賞にノミネートされたなど、語りかけるが江川さんは興味なさそう。

何とか次の目的地、草津駅前の地下の居酒屋「見聞録」へ、ヒーヒー言いながらたどり着いた。そこで注文はやっぱりスマホ(ムカツ)、それでも生ビールが出たら上機嫌になって「乾杯♡」。その頃、遙か海の向こうのアメリカでは、トランプとゼレンスキーの口論が繰り広げられていたとは…。 (TK)



お知らせ

共生・共育をめざす滋賀県連絡会 「総会と交流学習会」

日時： 3月15日(土) 13:30～16:30

場所： 大津・膳所打出浜 「ピアザ淡海」

*本号発行日が3月15日、総会開催日も同日となっています。申し訳ありません。